

低学年分科会提案

研究主題

思考力、判断力、表現力の育成

～国語科「読むこと」を通して～

○目指す児童像

想像を広げて読み取ったことを伝え合う中で、自分の思いや考えを広げることができる児童

○低学年の目指す児童像

言葉がもつよさを感じ取り、表現することの楽しさを味わうことができる児童

○目指す児童像の捉え方

- ・言葉の大体の意味を理解し、場面の様子を想像することができる。
- ・文章を読んで感じたことなどを交流し、互いの考えを共有することができる。
- ・工夫して音読する楽しさを感じることができる。

○分科会としての取組

1 問題解決的な学習過程の工夫

- (1) **課題** 場面や登場人物の具体的な様子を捉え、読み方を工夫して音読できるようにする。
- (2) **見通し** ワークシートを用いて、登場人物の様子や気持ちなど、読み取った内容を整理できるようにする。
- (3) **自力解決** 場面の様子に着目して、登場人物の表情や行動を具体的に想像し、工夫して音読できるようにする。
- (4) **共有** 自分の考えを伝えるとともに、相手の考えを受け止めて共有し、自分の考えを深めることができるようにする。
- (5) **振り返り** 自己評価により、達成感や次時への学習意欲を高めることができるようにする。

2 叙述をもとに想像を広げて読み、自分の考えをまとめるための手だて

- (1) 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えられるように、「だれが」「どうした」「どうなった」などを繰り返し、確認するようにする。
- (2) 挿絵を見せたり、動作化をしたりすることで、登場人物の行動を具体的に想像できるようにする。
- (3) 学習内容を可視化することで叙述や全体を捉える手掛かりにする。
- (4) 授業の終わりに毎回感想を書き交流することで、より理解が深められるようにする。

研究授業の視点

- ・トリオトークや板書で全体共有することは、それぞれの場面のよさを気付くのに有効であったか。
- ・共有したことをワークシートに書くことで、場面のよさを考えることができたか。

第2学年 国語科 学習指導案

令和5年1月19日（木）5校時

調布市立飛田給小学校

研究主題

思考力、判断力、表現力の育成

～ 国語科「読むこと」を通して ～

1 単元名「場面や人物の様子をくわしく読もう」

教材名「かさこじぞう」（教育出版）

2 単元の目標と評価規準

（1）単元の目標

○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。【知識及び技能（1）ク】

◎場面の様子に着目して、登場人物の様子を具体的に想像することができる。

【思考力・判断力・表現力 等C読むこと（1）エ】

○文章を読んで分かったことや感じたことを共有することができる。

【思考力・判断力・表現力 等C読むこと（1）カ】

○場面や登場人物の具体的な様子が伝わるように音読を工夫しようとする。

【学びに向かう力・人間性等】

（2）単元の評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（主）
語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて、読む速さや声の大きさなどを工夫して音読している。 （1）ク	場面の様子に着目して、登場人物の表情や行動から気持ちを具体的に想像している。 C（1）エ 文章を読んで分かったことや感じたことを共有している。 C（1）カ	場面や登場人物の具体的な様子が伝わるように音読をしようとしている。

3 単元設定の理由

(1) 児童観（児童の実態）

略

(2) 教材観

本単元の教材「かさこじぞう」は、昔話である。昔話はもともと口承文芸であったことから、この教材文にも語りのもつ独特の口調や言い回しなどが残されている。何度も繰り返し声に出して読むことで作品の良さを味わうことができ、内容の理解も進むものと考え。物語の舞台は真冬の農村、正月準備をする大晦日である。大人からすればいかにも日本の昔話らしい設定であると感じる一方、現代の日本とはかけ離れた暮らしぶりも数多く見られ、児童からすれば想像しづらい場面や登場人物の行動も少なくないと思う。児童が物語の世界を具体的に想像し、読み浸ることができるよう指導・支援をし、配慮していきたい。始めから終わりまで何度も声に出して読み、じいさまとばあさまの人を思いやる心を読み取らせたい。合わせて、現代ではあまり使われない道具の名前や動詞などを語彙として獲得していくことで、場面や登場人物の様子をより具体的に想像できるようにしたい。

(3) 指導観

本単元では、新学習指導要領C読むこと（1）エ「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること」を達成するべく、「読み方を工夫して音読発表をする」という言語活動を位置付けた。音読発表を目指して様々な音読の工夫を試みる中で、教材文に書かれた情景や人物の様子を想像できるよう学習活動を展開していく。音読は授業や家庭学習で日々取り組んでいる、児童にとってなじみ深い言語活動である。しかしながら、児童は大きな声ですらすらと読むことにだけ注意し、言葉のもつ意味や文章の内容を読み取ることは意識していない。音読を発表する場を設けることで、相手意識をもち、意欲的に学習を進めることができるものと期待する。

4 研究主題に迫るための手だて

(1) **課題** 場面や登場人物の具体的な様子を捉え、読み方を工夫して音読できるようにする。

- ・単元のとびらから、学習の目標と、「読みたい」という児童の意欲を喚起できるようにする。
- ・挿絵などによって、児童にとってなじみのない習慣や道具、言葉に興味をもてるようにする。
- ・音読発表という言語活動を設定することで、場面や登場人物の様子、気持ちに合うような読み方を考えることができるようにする。

(2) **見通し** ワークシートを用いて、登場人物の様子や気持ちなど、読み取った内容を整理できるようにする。

- ・物語の内容理解につながるために、冬休みの課題として「お正月の準備」「昔の道具」「地蔵について」のテーマを1つ調べ、習慣や道具などについて知るきっかけを設定する。
- ・道具や風景など形のあるものについては写真や挿絵と合わせて掲示する、動詞は動作化するなどして、新しく出てきた言葉を身に付けられるようにする。

- ・登場人物の台詞や行動を読み取り，ワークシートを用いてそのときの様子や気持ちを整理できるようにする。
- ・より作品の魅力を相手に伝えたい，内容をよく理解していこうとする目的意識を高めるために，1年生に音読発表をすることを学習計画の段階で設定する。

- (3) **自力解決** 場面の様子に着目して，登場人物の表情や行動を具体的に想像し，工夫して音読できるようにする。
- ・ワークシートを活用し，場面ごとの登場人物の表情や行動から気持ちを想像したり，確かめたりできるよう，焦点化する。
 - ・自分の気に入った場面を選ぶことで，より作品の魅力を相手に伝えようとする気持ちをもてるようにする。
 - ・読み取りによる内容理解を反映させた共通の音読の記号を教科書の余白に書き込むようにする。具体的には，声の強弱や間を空ける，声の高低や速さなど記号で書き込むことで，音読の工夫が視覚化され，自信をもって表現できるようにする。
 - ・他の児童の音読のよさを考え，場面や登場人物の様子の理解が深まることができるようにする。
- (4) **共有** 自分の考えを伝えとともに，相手の考えを受け止め共有し，自分の考えを深めることができるようにする。
- ・トリオトークを行い，自分の気に入った場面を友達と共有できるようにする。
 - ・友達の考えを聞いて，共感した場面のよさを深めることができるようにする。
 - ・より工夫して音読するために，様々なグループで発表し合う場を設定し，場面や登場人物の様子，気持ちに合った読み方を考えることができるようにする。
- (5) **振り返り** 自己評価により，その時間の達成感と次時への学習意欲を高めることができるようにする。
- ・毎時間の学習の最後に，学習課題に沿った振り返りを行うために，◎・○・△の三段階で自己評価をする。
 - ・物語文は，登場人物の気持ちに合わせた読み方をすると，相手によりよく伝わることを確かめ，今後の音読に活かしていこうとする。

5 単元指導計画【全12時間 本時6/12】

次	時	□主な学習活動	☆主題に迫るための手だて ◆評価規準（評価方法）
1	1	□単元のとびらを読み，学習の見通しを立てる。 □全文を読み，感想を書く。 ・どんな昔話を読んだことがあるか話し，昔話への興味を喚起させる。 ・大晦日の過ごし方についてふれる。	☆(2) ①音読の工夫に気付くことができるよう，抑揚のついた音読を聞かせる。 ◆文章の内容と音読の表現が関連していることに気付くようとする。 <知識及び技能>（ワークシート） ◆見通しをもって単元の学習に取り組もうとする。 <学びに向かう力・人間性等>（ワークシート）

2	2	□ じいさまとばあさまの暮らしを読み取る。 ・ 主な登場人物を確認する。 ・ 音読して二人の暮らしの様子や昔の人の暮らしの様子について読み取る。 ・ 主な出来事と何が変化したのか確かめる。 ・ 習慣や道具などの言葉の意味を確かめる。 ・ 学習の見通しを立て、読み取った内容から登場人物の気持ちとそれに合った音読の工夫を考えていく。	(2) ①登場人物の様子や場面の变化を具体的に捉えられるよう、ワークシートを用いて読み取った内容を整理する。 (2) ②児童にとってなじみのない習慣や道具などの言葉について、写真等を用いて理解を促す。 ◆ じいさまとばあさまの苦労について理解している。 <知識及び技能> (ワークシート)
	3	□ 1, 2 場面のじいさまのせりふや行動から、気持ちや様子を読み取る。 ・ じいさまのせりふや行動を読み取り、そのときの気持ちと気持ちに合った音読の工夫を考えていく。	(2) ①登場人物の様子を具体的に捉えられるよう、ワークシートを用いて読み取った内容を整理する。 (3) ②気持ちから音読の工夫を考え、ワークシートに記録する。 ◆ 登場人物の様子を具体的に想像し、読み方を工夫している。 <思考力・判断力・表現力等C (1) エ> (ワークシート, 音読)
	4	□ 3, 4 場面のじいさまとばあさまのせりふや行動から、どんな気持ちかを読み取る。 ・ じいさま, ばあさまのせりふや行動を読み取り、そのときの気持ちと気持ちに合った音読の工夫を考えていく。	(2) ①登場人物の様子を具体的に捉えられるよう、ワークシートを用いて読み取った内容を整理する。 (3) ②気持ちから音読の工夫を考え、ワークシートに記録する。 ◆ 登場人物の様子を具体的に想像し、読み方を工夫している。 <思考力・判断力・表現力等C (1) エ> (ワークシート, 音読)
	5	□ 5 場面のじいさまとばあさまのせりふや行動から、どんな気持ちかを読み取る。 ・ じいさま, ばあさまのせりふや行動を読み取り、そのときの気持ちと気持ちに合った音読の工夫を考えていく。	(2) ①登場人物の様子を具体的に捉えられるよう、ワークシートを用いて読み取った内容を整理する。 (3) ②気持ちから音読の工夫を考え、ワークシートに記録する。 ◆ 登場人物の様子を具体的に想像し、読み方を工夫している。 <思考力・判断力・表現力等C (1) エ>

		(ワークシート, 音読)
6 (本時)	□自分の気に入った場面を伝えたり, 友達の選んだ場面のよさを考えたりする。 ・トリオトーク (3人組) で, 選んだ場面の発表を行う。 ・気に入ったところを場面ごとにまとめる。	(2) ①これまでに書いてきたワークシートを基に気に入った場面を選び, その理由を発表する。 ◆場面や登場人物の様子に合うように, 読み方を工夫している。 <思考力・判断力・表現力等C (1) エ> (ワークシート, 音読)
7	□気に入った場面での登場人物の気持ちと, 気持ちに合った読み方を発表する。 ・同じ場面を選んだ児童同士で読み方を考える。 ・これまでに書いてきたワークシートを基に気に入った場面を選び, 自分の考えた音読の工夫を発表する。	(3) ②気持ちに合った音読の工夫を考えるよう, 前時までの学習を想起させる。 ◆場面や登場人物の様子に合うように, 読み方を工夫している。 <思考力・判断力・表現力等C (1) エ> (ワークシート, 音読)
8	□1年生への発表に向けて, 同じ場面を選んだ友達とグループを作り, どんな工夫をしたらよいか話し合う。 (グループ決め, 3人組10グループ) ・場面の様子を分かりやすく伝えるために, どんな工夫をしたらよいか話し合う。	(2) ①これまでに書いてきたワークシートを基に, 登場人物の気持ちに合った音読の工夫を考えていく。 ◆分かったことや感じたことを友達と共有している。 <思考力・判断力・表現力等C (1) カ> (ワークシート, グループワーク)
9	□グループごとに工夫した音読を練習する。 ・グループごとに音読の工夫を考え, 練習する。 ・同じ場面のグループ同士で音読を発表し合う。 ・発表で気付いたことや改善点を話し合い, 音読の練習をする。	(3) ②これまでの読み取りを生かした工夫ができるよう, 登場人物の気持ちと読み方を結び付けられるよう促す。 ◆場面や登場人物の様子に合うように, 読み方を工夫している。 <思考力・判断力・表現力等C (1) エ> (ワークシート, 音読) ◆分かったことや感じたことを友達と共有している。 <思考力・判断力・表現力等C (1) カ> (グループワーク)

	1 0	☐ 音読の発表を行う。 ・ 1 ～ 5 班と 6 ～ 1 0 班に分かれて音読の発表を行う。 ・ お互いの班の発表を見て、意見を交流する。	(3) ②取り入れられそうな工夫を考えながら聞くように助言する。 ◆場面や登場人物の様子に合うように、読み方を工夫している。 <思考力・判断力・表現力等C (1) エ> (ワークシート, 音読)
4	1 1	☐ 音読発表会をする。 ・ 1 年生に向けて、グループで考えた工夫を音読をする。	(3) ②いつでも読み方を確認できるよう、教科書を手元に置いておく。 ◆場面や登場人物の様子に合うように、読み方を工夫している。 <思考力・判断力・表現力等C (1) エ> (ワークシート, 音読)
	1 2	☐ 振り返りをする。 ・ 物語文は、登場人物の気持ちに合わせた読み方をすると相手によりよく伝わることを確かめ、今後の音読に生かしていこうとする。	(4) ①1 年生の反応を想起させ、音読を工夫したことによるよさを実感できるようにする。 ◆文章の内容に合わせ、これからも音読を工夫しようとしている。 <学びに向かう力・人間性等>

6 本時について（6/12時間）

（1）本時の目標

場面や登場人物の気持ちや様子から、自分の気に入った場面を伝えたり、友達の選んだ場面のよさに気付いたりすることができる。

＜思考力・判断力・表現力等C（1）エ＞

（2）本時の展開

	主な学習活動	主な発問と指示（○） 予想される児童の反応（・）	指導上の留意点（◇） 評価基準（◆）（評価方法）
導入	1 前時までの学習を確認する。 2 今日のめあてを確認する。	○単元の学習計画を示し、 単元のめあてと本時のめあてを確認する。 ○1から5場面を通してどのような物語がったか確認する。	
	自分の気に入った場面を伝え合い、それぞれの場面のよさを考えよう。		
展開	3 トリオトーク（3人組）で、 選んだ場面の発表を行う。 ・友達の考えをメモに取る。	○自分が選んだ場面について、気に入った理由を伝え合おう。 ○友達の考えでいいなと思ったことをプリントに書こう。 ・私がいいなと思った場面は、3場面です。理由はじょうさまにかさと手ぬぐいをかけていたところが優しいなと思ったからです。 ・僕がいいなと思った場面は、4場面です。理由はもちつきのまねごとを楽しそうにしているところがいいなと思いました。	◆思・判・表C（1）エ （話し合い、ワークシート） ◇トリオトークで自分の考えを伝えるための話型をワークシートに示し、自分の考えを伝えやすくする。 ◇友達の考えでよいと思ったことを記述することを事前に伝え、相手の話を聞く時の視点をもてるようにする。
	4 グループの児童の話を聞いて、いいなと思った場面とその理由をプリントに書く。		
	5 自分がいいなと思った場面にネームマグネットを張る。	○自分がいいなと思った場面にマグネットを張ろう。	◇友達の考えを聞いて改めて自分がいいなと思う場面にマグネットを張ることを促す。
	6 気に入ったところを場面ごとにまとめる。 ・場面ごとのよさを黒板に書き出す。 ・自分の気に入った場面だけでなく、友達の意見でよかった場面も発表する。	○自分の気に入った場面や友達の意見でよいと思った場面をまとめよう。 ・4場面で、ばあさまがいやな顔をしないで、じいさまをほめたところがやさしくていいなと思った。 ・4場面で、もちつきのまねごとをしていて、つらいはずなのに楽しそうなのがいいなと思った。	◇よいと思った場面の理由を言うことができるように促す。 ◇一番いい場面ではなく、それぞれの場面でよさがあることに気付くことができるよう促す。

		・5 場面で、「じょやさ」や「ずっさん」という言ばが、おもしろくていいなと思った。 ・5 場面で、よい年こしができたところがよかった。	
まとめ	5 学習の振り返りを行う。 ・友達の意見やそれぞれの場面のよさについて感じたことをプリントに記述する。 ・これまでの学習を通して、次回、音読発表で読んでみたい場面とその理由を記述する。	○友達の意見やそれぞれの場面のよさについて感じたことを振り返ろう。 ○次回の音読発表で読んでみたいところを考えよう。	◇ワークシートを活用し、友達の意見が違ったところや他の場面のよさを想起できるようにする。 ◇次回、音読発表を行うことを伝え、次時の意欲喚起につながるようにする。

(3) 評価

本時の評価規準	・場面や登場人物の気持ちや様子から、自分の気に入った場面を伝えたり、友達の選んだ場面のよさに気付いたりすることができている。
「十分に満足できる」と判断される児童の状況	・自分と異なる考えにも耳を傾け、自分の考えを追加したり、変えたり、確かにしたりすることができる。
「努力を要する」と判断される児童への手だて	・自分の考えを伝えられない。 ⇒話型が示してあるワークシートを確認し、話すよう促す。 ・他の児童が選んだ場面のよさに気付くことができなかったり、共感できなかったりする。 ⇒一番良い場面を選ぶのではなく、それぞれの場面のよさがあることを助言する。

(4) 板書計画

めあて 自分の気に入った場面を伝え合い、 それぞれの場面のよさを考えよう。					
5	4	3	2	1	場めん
・じぞうさまがおんがえしにきたところがいいなと思った。 ・「じょやさ」や「ずっさん」という言ばがおもしろくていいなと思った。 ・よい年こしができたところがよかった。	・ばあさまがいやな顔をしないで、じいさまをほめたところがやさしくていいなと思った。 ・もちつきまねごとをしていて、つらいはずなのに楽しそうなのがいいなと思った	・じぞうさまにかさと自分の手ぬぐいをかぶせたところがやさしくて、いいなと思った。	・じいさまが声をはり上げてかさをうっていたところから、がんばってかさをうりたいという気もちが伝わってきていいなと思った。	・年こしの買ひものをするためにすげかさをこさえたところがすごいと思った。	「いいな」とおもったところ

かさこじぞう 岩さき きょう子

研究協議会記録

(1) 研究協議

① 成果

- ・事前に自分の意見をもっていたので、トリオトークがスムーズ。
- ・トリオトークがあったので、今後も積み重ねていくといい。
- ・本文を覚えている子が多くて読み深まっていた。
- ・想像する力が付いている。
- ・ワークシートの話型がよい。これにより、スムーズに話せていた。
- ・友達の意見を伝え合うことを通して、他の場面の面白さや良さを気付くことができた。
- ・2組は、言葉に注目して面白さを伝える子が多くいた。佐々木先生の範読の力。

② 課題

- ・初めに自分の意見を言いたくても、友達の意見を伝えなくてはいけなかったので、全体共有の際に混乱している子もいた。
- ・全体のスピードについていけない子もいたので、教科書を開く時間があってもよい。
- ・言葉の良さや、自分の思った気持ちを色分けしてもよかった。(全体共有時)
- ・いいなと思ったことも、板書で色を変えてもよかった。(色分け)
- ・いいなと思った場面に名前を貼る時に、何の意見をはりに行けばいいか迷っている子がいた。
- ・言葉を「音読」したり、表現したりして、読む面白さをみんなで考えてみる時間があってもよい。
- ・トリオトークで互いの良さを伝え合うのがこれからの目標
- ・子供の意見を教師がどう生かすか。面白い言葉もしっかり理解することで、情景が豊かに想像できるとよい。同じ言葉でも子供たちが捉えたものがそれぞれ違うので、教師がどう扱っていくのが課題となった。
- ・「読みたい場面」は、読みたい文ではなく、読みたい「言葉」になってしまったので、そこまで求めなくてもよかった。
- ・本時では、昔の言葉シリーズになると、「面白い」という理由になる。音読につなげていくためには、動作化したり音読したりする時間を大切にしていけるのがよいと思う。

(2) 全体講評

- ・子供たちに力がついていると感じた。
- ・基礎的な力がついている。あの時間で2年生が意見を書けるよさ。
- ・悩んでいる子も、振り返りを含めてワークシートに書けていて、力がついた。
- ・話型も身に付いている。
- ・やりとりは今後の課題につながっていく。
- ・扉を大事にする。扉には音読とは書いていない。どうして音読にしたか。
- ・音読発表会という言語活動を通して、何を育てたいのかが大切。
- ・学びの意欲をもたせる。(目的意識)
- ・音読発表会=この教材の特長。語り手がいる。楽しい話。ハッピーエンドで終わる。
- ・教師が設定した課題でも、「やってみて楽しかった」と経験することで、学年が上がると自分たち

から自然発生的に出てきてほしい。様々な経験をしていくことが大切。

- ・音読発表会に関しては、どのような発表にしたらいいのかよく考える。音読劇の方が、より特長をいかし、ねらいを達成するのに効果的。
- ・動作化して、子供たちがより具体的に想像することができる。
- ・音読発表会のために、時間を作るのではなく、場面の読み深めにしっかり時間をとるのが大切。
- ・音読発表会は手段。目標や目的になってしまうと続かなくなってしまう。
- ・本時の学習について精査、解釈ができていたであろうか。
- ・「はなからつらら」で面白いだけではなく、どんな状況か様子かをしっかり想像することが大切。何を目指していくのが大切。
- ・本時の授業は、友達の意見の伝え合いだったら（カ）【指導要領より】である。（エ）叙述の言葉から、登場人物の情景や様子を想像する力をつける。
- ・どの言葉から、じさまの気持ちを想像することができるかを見たかった。
- ・ばあさまに触れていた子（K君）。ばあさまに注目した人が一人。「いやな顔ひとつしないで」→どういう感じ？をみんなで共有したい。
- ・言葉から想像する力をつけるのが、単元の一番大切なこと。その上に自分の考えがついてくる。（自立【深い読み取り】があれば、叙述をもとにいろいろな表現が生まれてくる。）
- ・言葉の響き、現象を楽しむからもう一步踏み込めるとよい。
- ・雪を払う。どうやる？ そのぐらい寒い。その場の状況や想像していくことが大切。
- ・P22【指導要領】：音読が知識技能に入っている。語のまとまり、響きに注目して音読できればよい。（大事なところ）
- ・音読の「工夫」は高学年。間や強弱を工夫することは中学年。低学年でも先取りして学習してもよい。（学年の実態に合わせて）
- ・（ウ）：話すことの技能が示されている。声の大きさ・早さなど。
- ・音読は子供が自分の解釈した言葉や文で、子供なりの表現ができていればよい。
- ・国語は、特に言葉を大切に「読む」ことの能力をつけることを大事にさせたい。
- ・この話の地蔵様がやっていることは「恩返し」なのだろうか。じさま「ござらっしゃる」という言葉は、石の地蔵につかう「地蔵信仰」守ろうとする人への見返し。石が動く…信じる人が起こす奇跡。日本人の心である。
- ・初発の感想を交流する際に、「どう思った」かを問うことで、いろいろな思いが出てくる。授業の柱の立て方につながる。